

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会〔公開議題〕

議事概要

- 日 時 令和7年2月27日（木）10：00～10：23
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 上山議員、伊藤議員、梶原議員、佐藤議員、篠原議員（Web）、
菅議員（Web）、波多野議員、光石議員（Web）
（事務局）
柿田統括官、濱野事務局長、森総理補佐官（Web）、川上審議官、
藤吉審議官、彦谷審議官、塩崎事務局長補、岩渕参事官、原府審（Web）、
寺坂企画官、小金井補佐、松本外務大臣科学技術顧問、
大野経産大臣科学技術顧問、小安文科大臣科学技術顧問
- 議題 （1）地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの今年度更新（別表）
について

○ 議事概要

午前10時00分 開会

○岩渕参事官 それでは、お時間となりましたので、本日の木曜会合を始めさせていただきますと思います。

本日は、オンラインで篠原議員、菅議員、光石議員、お三方が参加をされるというように伺っております。

それでは、公開議題「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの今年度更新について」です。上山議員より進行をお願いいたします。

○上山議員 ありがとうございます。最初の公開議題は、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの今年度の更新であります。

まず、担当の寺坂企画官から概要を御説明いただいて、御意見皆様から頂きたいと思います。では、よろしく願いいたします。

○寺坂企画官 C S T I の大学改革・ファンド室の寺坂でございます。地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの更新ということで御説明をさせていただきます。

資料につきましては、1枚紙の概要と、パッケージ本体を御用意させていただいてございま

す。1枚紙の方をまず御説明させていただきます。

このパッケージでございますが、1枚紙、上の四角の中に書いてございますが、令和4年にCSTI本会議で決定をして取りまとめたものでございます。国際卓越研究大学の取組に加えて、各地域の中核となる大学、また分野において特色のある研究を行っている大学、そうしたところについても国際卓越研究大学と車の両輪として振興していく、そのための施策を取りまとめたパッケージということで決定をしてございます。

その後、令和5年には対象事業の更新等に加えて、大学が目指すそれぞれの大学像に向けてその自身の立ち位置を振り返り、また今後どういった強みを伸ばしていくかというところを分析や検討していくためのフレームワークとなります。羅針盤の考え方の提示等質的な拡充も図って改定を行ってございます。

これは、本体の11ページの方にこの羅針盤の考え方を載せてございますが、五つの観点、卓越性でありますとか、社会実装、地域貢献、研究環境、マネジメントといった観点ごとにそれぞれどういったところを伸ばしていくのかというところを検討できるような枠組みとなっております。そうしたものをお示しをしたというのが令和5年でございます。

また、令和6年につきましては、予算額、対象事業、参考事例等の時点更新を行い、改定したわけでございますが、合わせまして、予算額、参考事例等年次での時点更新が発生をする部分につきましては別紙という扱いといたしまして、次年度以降、昨年度という次年度以降ですね、今年度以降の時点更新については木曜会合への報告で対応できるような形でパッケージの構成も更新をしたというのが昨年度でございます。

そういったものも受けまして、今年度につきましては別紙のみ予算額の更新、対象事業の追加、参考事例の時点更新といった形で対応するものでございます。

主な更新箇所につきましては下半分のところにまとめてございます。まず、予算額の関連でございますが、令和7年度当初予算と令和6年度補正予算ということで計算をしてございますが、昨年度比118億円増の584億円ということで計上してございます。こちらにつきましては、大学自身の取組の強化のために支援をする事業という部分の計算ということでございます。

このほかに関連事業という形で書いてございますが、社会課題に対応していくための技術の社会実装を進める関係省庁の事業ということで、大学も参加できるような事業でございます。そうしたものを関連事業として計上して掲載してございますが、そちらにつきましては令和7年度当初予算、令和6年度の補正予算の総額ということで、昨年度比674億円増の2,16

2億円ということで計算しているところでございます。

また、参考事例の関係でございますが、J－P E A K Sにつきまして、昨年度、今年度と採択してきてございますので、その採択実績等の追加をする修正を行っております。また、内閣府の方で実施をしてございます地域中核大学イノベーション創出環境強化事業の採択実績の更新を行っております。また、日本オープンイノベーション大賞ということで毎年表彰を実施してございますが、その中で大学と地域をつなぐ人材・組織の表彰というものも行っております。そして、そちらについても令和6年度採択事例の更新をしてございます。

あと、一番下に書いてございますが、こちらパッケージの更新そのものということではございませんが、今後、先ほど申し上げました羅針盤の各観点につきまして、大学でどういう取組をこれまで実施をしていて、それが羅針盤の各項目に関する指標にどういった効果を上げてきたのかといったような取組と効果の関係についての調査研究についても今後実施をしていく予定でございまして、そうしたものも活用しながらさらにパッケージの活用を推進していきたいというように考えてございます。

以上、更新の概要でございます。

また、本体の方を御覧いただければと思いますが、実際に具体的に更新をした箇所ということで申し上げますと、パッケージの方で20ページ以降が別紙ということになってございますので、以降の部分を御覧いただければと思います。黄色でハイライトしてある赤字の部分のところが更新をしているところでございますが、例えば先ほど主な更新箇所でお示したところを申し上げますと、大学自身の取組の強化に対する支援というところについては、23ページの方でございます。こちらでそれぞれ人材育成でありますとか研究拠点の形成、基盤的活動の支援などに関する大学自身の取組の強化に関する事業を掲載をさせていただいております、この部分を更新をしたところが先ほどの令和7年度予算案、令和6年度補正予算の総額というところで御紹介をした部分でございます。

また、27ページの方に、先ほどのJ－P E A K Sの今年度と昨年度の採択実績の部分も新たに追加をしているということでございます。

その次でございますが、40ページの下のところには赤線の枠で囲ってあるところでございますが、日本オープンイノベーション大賞の今年度の受賞を受けた福井大学等の取組ということで更新をさせていただいているというところがこのオープンイノベーション大賞の部分でございます。

あと、45ページの方を御覧いただければと思いますが、こちら内閣府の地域中核大学イノ

バージョン創出環境強化事業の採択実績の更新部分ということでございます。

あと、４８ページ以降でございますが、こちらが先ほどの関連事業と申し上げましたが、各関連事業について、自動運転でございますとか、そうした各取組ごとに社会実装に向けた支援事業、各府省のメニューをこちらに掲載をしております。羅針盤の考え方を基にこういう取組を伸ばしていきたいという各大学がここの事業のメニューを御覧いただきながら使えそうなものを選択していただいて、御活用いただけるような形で掲載している部分を更新しているという形でございます。

私からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○上山議員 ありがとうございます。

それでは、今の御説明につきまして、御意見、御質問等ございましたら頂きたいと思えます。どなたでも結構です。よろしくお願いいたします。一つ大きな区切りだと思います。

○伊藤議員 いわゆる大学ファンドからの支援事業と、今回の地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの施策はどのような関係になるのでしょうか。。

○寺坂企画官 大学ファンドで卓越した研究大学に支援をするという事業が一つ国際卓越研究大学の事業で大きくありまして、それと車の両輪として取り組んでいくための施策をパッケージとして集めたものが今回の総合振興パッケージでございます。

○上山議員 光石議員、どうぞ。

○光石議員 ありがとうございます。

本体の方の２０ページの一番下の右側ですが、地域等から資金を受け入れて地域貢献を行う大学に対してインセンティブを付与というのがありますが、少し部分的な話になってしまうかもしれませんが、これは１５ページ辺りにも書かれている予算を増やすということでしょうか。それともインセンティブを付与というのが具体的にどういうインセンティブなのかということで、これは１５ページ辺りの自治体との連携強化ということもありますが、具体的にどういう連携強化ということが見えているのでしょうか。

○寺坂企画官 ありがとうございます。

こちらで書いております２０ページのところに該当する事業といたしましては、内閣府の方で実施をしている地域中核大学イノベーション創出環境強化事業を想定をした記載となっております。

こちらの事業でございますが、正にこういった形で自治体等から資金を獲得をして地域貢献を行っている大学を中心に支援するという形のスキームにすることで、その取組をするように

促していくような事業となつてございます。例えば自治体におけるこの趣旨に該当する事業をまず内閣府の方で集めまして、その事業に実際に採択されているかどうかというところを、大学が申請をするときに、併せて記載を頂いて申請をしていただくという形にしております。そうすることで自治体等の連携を促しているような形にしております。

○光石議員 この予算が増えているということになるのでしょうかということ、今、石破総理が地方創生を言われていますが、それとは直接はリンクしているわけではないのでしょうか。

○寺坂企画官 ありがとうございます。

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業の事業自体で申し上げるとなかなか予算的に伸びているかというところではないというところがあります。それ以外にも地域との連携を進める事業というものは様々ございます。もちろん大きなところで言えば、J－P E A K Sの事業もその一つかと思いますが、そうしたいろいろな事業を活用いただいて、自治体との連携を進めるというところは全体として進めていくということは併せて必要かなと考えてございまして、そうした部分は総額では伸びているかなというところかと思います。

○光石議員 ありがとうございます。

○上山議員 地域振興パッケージには入っていませんが、地方創生の70億のお金は今度は自治体側に出して、必ず大学を絡めてというのがここで動いているので、大学側からと自治体側というのはそういう仕組みもこれとはちょっと付随してございます。ちょっと付言いたしました。

○佐藤議員、よろしくお願いします。

○佐藤議員 どうもありがとうございました。ご苦労さまでした。

今後のことについてお願いを2点申し上げたいと思います。18ページのところにある定期的にフォローアップしていくことが重要だということは御認識のとおりだと思います。フォローアップしていく上で是非フォーカスして欲しい点を二点申し上げます。

一つは、J－P E A K Sは伴走支援の仕組みがどう機能するのかが制度設計上の成否を決める大きな要因だと思います。これをどのようなタームで、例えば1年ごとなのか3年ごとなのか、今後伴走していく上で幾つかの問題が発生してくると思いますので、どういう問題が起こっているのか、どういう効果が出ているのかという事を、最初は頻度を上げて見ていくということが必要ではないかと思いますので、御検討よろしくお願ひしたいと思います。

それからもう一つは、この資料の33ページにある「つなぐ仕組み」ということですが、比較的地域の産学官ということに焦点当たっているように書かれていますが、私の問題意識は、

大学間の連携です。これは J－P E A K S でも大学間の連携ということが期待されていますが、連携の中身というのはまだこれからだろうと思います。研究力の強化や U R A の共同利用などの問題も含めて、大学間連携が今後ますます必要になってくる中で、J－P E A K S に採択された大学がどのような取り組みを実践し、どのような実績を上げていくのかを、しっかり見ていくということもフォローアップの上で非常に重要ではないかと思います。

最後に、全体の広報活動についてです。卓越とか J－P E A K S の取り組みを大学改革の一員としてどのような形で世の中に示していくのか、という点です。せっかくこれだけ努力してきたわけですし、国民からの理解を得るという観点からももう少し広報戦略を練った方がいいのではないか、と思います。是非寺坂企画官の方で考えていただければと思います。

私から以上です。

○寺坂企画官 ありがとうございます。

大学間連携のところにつきましては、正にこのパッケージの中でもそうしたコンセプトをお示しをさせていただいているところでございまして、そういった推進をしていかなければいけないという問題意識は持っております。恐らくこれから国際卓越研究大学が、今2回目も公募してございますが、どんどん校数としても増えていく、また J－P E A K S の方も25大学が出てくる中で、そうした大学間の連携をいかに進めていくかというところで今後実際の伴走支援なりフォローアップをしていく中でいかに連携をしながら取り組んでいって、全体として底上げを図っていくことが必要かなと思ってございます。

伴走支援の事業につきまして、こちら J－P E A K S 自体は文科省の事業であります、我々も文科省とはよく連絡を取りながら、フォローアップがしっかりできるように取り組んでいきたいと思ってございます。

あと、広報の方でございます。確かにこのパッケージ自体は例えば自治体に何かの機会に周知をしたりとか、大学に何かの機会に個別でお話をしたりとか、事業の中で羅針盤を活用していただいたりとか、そういう個別の周知というのはやってはございますが、全体としてどう見せていくかというところは正に課題かなと思っておりますので、そうしたところの見せ方等についても検討して対応していきたいと思っております。

○佐藤議員 国民に対してということに加えて、財政当局に対するものも含めた広報戦略が大事だと思いますので、よろしくお願いいたします。

○上山議員 恐らく最後の広報のところについては、この問題は深く C S T I が関わってきたことなので、C S T I が見てきた全体像みたいなことをどこかで説明し、考えてきたことを広

く知ってもらう、議員の先生方がですね、やっていくことが恐らく次のステップにつながるのかなというように思います。

ほかに。大野先生、どうぞ。

○大野経産大臣科学技術顧問 ありがとうございます。

大学以外のアクターと大学が深く関わる未来に一步踏み出していると思うんですが、是非、佐藤議員からもお話がありましたが、モニターの視点として、ありがちなのは、新たな事業が始まって、その負荷がどこに行ってるのかと。大学が自分たちで組織として受け止めているのか、あるいは個々の研究者に負荷が行ってしまっているのか。書き込んであるんですが、ありがちなのは、よく分からないのであなたやってくださいといって実際に事業を担う教員だったり研究者だつたりに負荷が集中してしまう、そういうことがないように。大学が組織としてこれをやることで、認知が上がって、かつ大学の中も元気になる、外も元気にする、そういう大きな流れを作っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○上山議員 この件についても、PEAKSという団体、佐藤議員にチェアやってもらっていますが、あれは国際卓越研究大学とJ-PEAKSの大学がほぼ母体になるような、かつ産業界が入ってくるということであれば、そういうところを使ってそれぞれの問題みたいなことを考えていくことは今後あり得るのかなと思ったりはしております。

ほかに。梶原議員、どうぞ。

○梶原議員 ありがとうございます。

細かくなりますが、関連事業マップを見ていて、これ9個ぐらいですかね、各支援メニューがあります。以前から大学の方からはどこに連絡したらいいか分からないといわれていました。資料では、網羅的にリストアップされています。そこで、思ったことは二つございまして、実際の現場の方から何かフィードバックとかそういうのが出てきているのかということと、こういうリスト化されることによって、逆に省庁間の中で重複がありそうとか、足りないとかいうことも見えてくるような気もしますので、そういった今後に向けての省庁間同士での対話、先ほどフォローアップという話がありましたが、そういうことをやっていらっしゃるのか、いこうとされているのか、その辺を伺いたいと思いました。

○寺坂企画官 ありがとうございます。

まず、大学からのフィードバックにつきましては、個別に意見交換等する中でそのパッケージのことを周知をしたりというところでやり取りをすることはございますが、ここの例えば個

別の支援メニューのリストのやり方のところについてこうであるというような御意見が余りこれまでは頂いたことは正直ないかなというのが現状かなと思ってございます。

あと、各省とのフォローアップ、やり取りというところについてですが、例えば羅針盤を事業の中でこういった形で使っているかとか、そういったような形のやり取りなんかはしておりますが、事業間の連携をではどのように具体的に進めていくかといったようなところまでの話し合いというところにはまだ行っていないかなと思ってございまして。ここの分野を確かに支援メニューとして今提示をしているということですが、ではその間の連携をどうしていくかとか、そういったようなところについてはまた更に今後検討していく必要があるかなと思ってございます。

分野によっては合同の例えば審査会のような形で連携をしながら取り組んでいるものもございしますが、そうしたところが、全体としてそういった形でやっているとかそういったところまではまだ至っていないというのが実情かなというようには認識してございます。

○上山議員 御質問等なければ、ここでこの議題を終えたいと思います。

どうもありがとうございました。

○岩渕参事官 それでは、公開議題は以上となります。ありがとうございました。

午前10時23分 閉会